

だい かいいいんかい おも いけん
 第1回委員会における主な意見

しょう しょうらいぞう
 1 障がい福祉の将来像について

- 人間としては皆同じ。強みと弱みを持ちお互いに助け合っている。また、そのような中で共感をし、自分たちの生活の豊かさにつながっている。そういうあたり前の視点が弱い。ハンディキャップがあっても地域社会で安心して暮らすことができる、これを言葉の上ではなく、私たちが実感を持ってできるような社会を作っていく。そのための施策を進めてもらいたい。
- 小さい時から一緒に暮らす、地域社会と一緒に暮らす。一緒に学んで、一緒に遊ぶことが原点だと思う。
- 障がい者のことを地域の方が理解する必要がある。地域で生活していると、嫌な思いをすることがある。例えば、野球観戦時の対応などで冷たくされることがあり、がっかりした。
- 公的なサービスだけではなく、野球観戦に行くなどいろいろな側面があり、その人の暮らし全体をどうみんなで支えていくか。広く見ていくことが大事である。
- 地域で暮らしていくためには、朝あいさつすることが大切である。
- 常にコミュニケーションをする中で、地域も変わっていく。
- 障害者支援施設の議論だけではなく、地域づくりの視点が重要である。
- 障がいの理解という福祉教育的なことを進めていくことは、地域を作っていく一つの方法だと思う。
- 当事者はもちろん、福祉の支援を担う者も、しっかりと尊重され、誰もが意欲を高めて生き生きと活躍できるとよい。当事者の方も、障がい福祉に携わる方も、みんな大切である。
- 施設のあり方も変化してほしい。
- 入所施設をゼロにしていくのかどうかという議論については、慎重に議論する必要がある。
- 終の棲家論については、意思決定支援の考え方で、利用者の方がどこに住みたいのかを改めて検証していくことが大事。
- 地域にはグループホームが多くあり、福祉とは関係のない人が大家さんをやっているが、見ている人は見ている。もっと地域の資源等を利用できるのではないか。
- 地域で住むにはグループホームと誤ってしまうが、住まいそのもののあり方も大事

だと思^{おも}う。

- 当事者目線^{とうじしゃめせん}というのは、常^{つね}に相手^{あいて}に合^あわせて話^{はなし}をすることである。

2 県立障害者支援施設のあり方^{けんりつしょうがいしゃしえんしせつ}について^{かた}

- 県立施設^{けんりつしせつ}のあり方^{かた}について、民間^{みんかん}では受入れ^{うけい}られない人^うを受け入れるという発想^{はっそう}では、終^{つい}の棲家^{すみか}になってしまう。民間^{みんかん}の質^{しつ}の高^{たか}い支援^{しえん}をしている事業者^{じぎょうしゃ}を含^{ふく}めて神奈川県^{かながわけんぜんたい}全体の障^{しょう}がい福祉^{ふくし}を考^{かんが}え、見直^{みなお}していかないと終^{つい}の棲家^{すみか}は消^きえない。
- 県立施設^{けんりつしせつ}と関係^{かんけい}を持たせながら、神奈川県^{かながわけんちいきぜんたい}地域^{こんご}全体の今後^{ふくし}の福祉^{こうちく}をどう構築^{こうちく}するか、支援体制^{しえんたいせい}を構築^{こうちく}するか、ということだと思^{おも}う。
- 施設^{しせつ}はこれまで当事者目線^{とうじしゃめせん}から検討^{けんとう}されてこなかった。
- 民間^{みんかん}でできないことを公^{おおやけ}（県立施設^{けんりつしせつ}）がするということは、そもそも無理^{むり}があるのではないかという根本^{こんぽんてき}的な課題^{かだい}について検討^{けんとう}していきたい。
- 全国的^{ぜんこくてき}な動向^{どうこう}としては、県立施設^{けんりつしせつ}としては縮^{しゆく}小^{しょう}し、将来的^{しょうらいてき}には廃止^{はいし}にしていくという流れ^{なが}である。
- 施設^{しせつ}の中^{なか}でずっと過^すぎすという形態^{けいたい}を短期^{たんきてき}的には改^{あらた}めてもらいたい、地域^{ちいき}の中^{なか}で、嫌^{いや}な思^{おも}いも嬉^{うれ}しい思^{おも}いもする^{おもしろ}というようなチャン^{ちゃん}スをつくってほしい。
- 施設^{しせつ}の外^{そと}に出^でることで、当事者^{とうじしゃ}に関わ^{かか}る人^{ひと}（依存先^{いぞんさき}）を増^ふやしていく。関わ^{かか}る人^{ひと}が多^{おほ}ければ多^{おほ}いほど、本^{ほん}当^{とう}に尊^{そん}厳^{げん}ある生活^{せいかつ}が可^{かの}能^{のう}となる。
- 障害者総合支援法^{しょうがいしゃそうごうしえんほう}施行^{せこう}後^ご、報^{ほう}酬^{しゆう}体系^{たいけい}が分^わかれたため、法^{ほう}人^{じん}内^{ない}外^{がい}の日^{にち}中^{ちゆう}活^{かつ}動^{どう}を使^{つか}って事業^{じぎょう}を展^{てん}開^{かい}している。県立施設^{けんりつしせつ}の場合^{ばあい}には、エリ^{えり}ア^あ的^{てき}な問^{もん}題^{だい}も含^{ふく}めて、そうい^いう状^{じょう}況^{きやう}にあるのかチ^ちェ^えック^{っく}が必^{ひつ}要^{よう}。
- 入^{にゅう}所^{じよ}施設^{しせつ}は単^{たん}独^{どく}ではなく、地^ち域^{いき}ととも^{とも}に存^{そん}在^{ざい}しないと地^ち域^{いき}移^い行^{こう}は難^{むずか}しい。地^ち域^{いき}を^{ちいき}作^{つく}っていくという視^{してん}点^{てん}で入^{にゅう}所^{じよ}施設^{しせつ}を同^{どう}時^じに運^{うん}営^{えい}して^{ひつ}い^{よう}く必^{けんりつしせつ}要^いがある。県立施設^{けんりつしせつ}が、今^{いま}の立^り地^ち、利^り用^{りよう}・運^{うん}営^{えい}形^{けい}態^{たい}で、それ^{それ}が本^{ほん}当^{とう}に可^{かの}能^{のう}なのか、議^ぎ論^{ろん}が必^{ひつ}要^{よう}となる。
- 通^{つう}過^か型^{がた}施設^{しせつ}を実^{じっ}践^{せん}して^うい^えく上^{じゆう}で大^{たい}切^{せつ}な^きのは、自^じ分^{ぶん}が何^{なん}のた^ため^めに^き来^きた^たのか、本^{ほん}人^{にん}が合^{ごう}意^いして入^{にゅう}所^{じよ}する^{しよ}ことである。ど^もうや^あつて^あま^あた^あ戻^{もど}って^{もど}い^あくのか、新^{あたら}しい^{あたら}人^{じん}生^{せい}を作^{つく}って^{つく}い^{つく}くのかを^{えが}描^{えが}いて^{えが}い^{えが}かな^{えが}ければ^{えが}なら^{えが}ない。
- 入^{にゅう}所^{じよ}した^{しよ}と^{しよ}ころ^{しよ}から^{しよ}地^ち域^{いき}移^い行^{こう}へ^いの^いス^いタ^いー^いト^いという^いよ^いう^いな^い意^い識^しで^{しえん}支^し援^{えん}して^{しえん}い^{しえん}る。
- 地^ち域^{いき}で^{せいかつ}の^{むずか}生^{せい}活^{かつ}が^{にゅう}難^{じゆう}しく^{とたん}な^{とたん}って^{そう}入^{さん}所^{だん}した^{しえん}途^{せん}端^{もん}、相^{かん}談^{けい}支^{しゃ}援^{しや}専^{にゅう}門^{しよ}員^{しよ}な^{しよ}ど^{しよ}の^{しよ}関^{かん}係^{けい}者^{しや}が、入^{にゅう}所^{しよ}した^{しよ}から^{しよ}大^{だい}丈^{じゆう}夫^ぶと、す^しっ^しと^しい^しな^いく^いな^いく^いな^いって^いし^いま^いう^い周^{しゆう}圍^いの^い意^い識^しも^{かだい}課^{かん}題^{だい}と^{かん}感^{かん}じ^{かん}る。
- 通^{つう}過^か型^{がた}施設^{しせつ}という^{じゆん}よ^んり^んも^が循^{しせつ}環^{しせつ}型^{しせつ}の^い施^い設^{ちづ}の^いよ^いう^いな^い位^い置^{ちづ}付^づけ^づが^づよ^づい^づの^づで^づは^づい^づな^づい^づか。

- 今回は、当事者との伴走の仕方を変容させるチャンスである。当事者と一緒に施設を進め、その先に、施設が不要になるような実践を展開していきたい。
- 現に施設に入所されている方がいるため、地域の社会資源の整備とセットで考える必要がある。

3 人材育成について

- 神奈川県には、相談支援専門員やサービス管理責任者などの研修に関わる人が多くいるので、そういう人材を生かしながら取り組めることが神奈川県の強みである。
- 大事なのは福祉にかかわる職員の意識と意欲を高めること。
- 多くの支援員が頑張っているが、支援者の意図に沿ってもらいたい、馴染んでもらいたいと思った時点で、心の二次障がいが始まっている。そういう小さな積み重ねの延長線上に、いろいろなことが起きている。
- すべての方に計画が作られ、しっかり振り返るためのモニタリングを行い、その中で、本人の心がどのあたりで動いたか確認することを積み上げていくしかない。

4 その他

- 当事者の委員が男性ばかりなので、女性の当事者がほしい。
- 政令市、中核市を含め全県的なオール神奈川という捉え方で議論する必要がある。
- 予算的なネックはあるが、あるべきところを自由に、意見を出し合った方がよい。
- 神奈川県内の実践家には、高いスキルを持った人が多くいる。この委員会が実効性を持つためには、実務担当者グループが必要。各地域でそれぞれのテーマで集まるようなものがあると、この委員会も熱を帯びてくると思う。